

安全データシート

作成日 2017年 1月 6日
改定日 2018年 5月 18日

1. 化学物質等及び会社情報

製品名: ARCHIST ONEPIECE-GEL (プライマー)

会社名: リノブリッジ株式会社
開発営業部

住所: 東京都新宿区西新宿 1-8-1 新宿ビルディング 5階

電話番号: 03-6279-4275

E-mail: info@renobridge.jp

推奨用途および使用上の制限: コンクリート被着面の表面処理剤

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

最重要危険有害性および影響

物理化学的危険性

健康に対する有害性

引火性液体

急性毒性(経口)

眼に対する重篤な損傷・眼

刺激性

生殖毒性

特定標的臓器・全身毒性

(単回ばく露)

特定標的臓器・全身毒性

(反復ばく露)

環境に対する有害性

水生環境急性有害性

水生環境慢性有害性

引火性

区分2

区分5

区分2

区分1A

区分1 (中枢神経系、全身毒性)

区分3 (気道刺激性、麻酔作用)

区分1 (肝臓)

区分2 (呼吸器、肝臓、脾臓、中枢神経系)

区分外

区分外

※ 記載がない危険物有害性は「区分外」、「分類対象外」または「分類できない」である。

ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

引火性の高い液体及び蒸気

目刺激

生殖能または胎児への悪影響のおそれ

呼吸器への刺激のおそれ

眠気又はめまいのおそれ

長期にわたる、又は反復暴露による血液系の障害

長期にわたる、又は反復暴露による呼吸器、肝臓、脾臓、中枢神経の障害

注意書き:

[安全対策]

・本安全データシート(SDS)の安全注意を読み理解するまでは取り扱わないようにして下さい。

・使用しない時は密封して冷暗所に貯蔵して下さい。一度開封したものはできるだけ

その日のうちにご使用下さい。

・使用時は飲食、喫煙しないで下さい。また換気に十分注意し、火気に近づけないようにして下さい。

・取り扱い中はできるだけ皮膚に触れないようにし、取り扱い後は手洗いを十分に

行って下さい。

- ・極めて引火性の高い液体であり、火気厳禁です。
- ・熱源、火花、炎から隔離して下さい。
- ・防爆型の電気機器・換気装置・照明装置を使用して下さい。
- ・火災を発生しない工具を使用して下さい。
- ・容器を設置すること/アースをとって下さい。
- ・静電気放電に対する予防処置を講じて下さい。
- ・屋外又は換気の良い場所でのみ使用して下さい。
- ・粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないで下さい。
- ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用して下さい。

[応急処置]

- ・火災の場合、適切な消火方法をとって下さい。
- ・皮膚(または髪)に付着した場合は、汚染された衣服を全て脱ぎ、速やかに多量の水と石鹼で完全に洗う、また吸入した場合は、空気の新鮮な場所で安静にし、直ちに医師の診断を受けて下さい。
- ・目に入った場合は、速やかに流水で数分間注意深く洗浄、またコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外してから数分間注意深く洗浄し、直ちに眼科医の処置を受けて下さい。目の刺激が続く場合は、眼科医の処置を受けて下さい。
- ・飲み込んだ場合は、安静にし、直ちに医師の診断を受けて下さい。
- ・ばく露またはばく露の懸念のある場合は医師の処置を受けて下さい。

[保管]

- ・容器を密閉し、涼しく換気の良い所で施錠して貯蔵して下さい。

[廃棄]

- ・内容物や容器を都道府県の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託して下さい。

国/地域情報:

記載なし

3. 組成、成分情報物質

化学名又は一般名: シリコン溶液混合物
 分類に寄与する不純物及び安定化添加物: 有用な情報なし
 濃度又は濃度範囲:

成分	CAS 番号	官報公示整理番号	含有率
シリコン系化合物	非公開	非公開	0.5~1.5
エタノール	64-17-5	(2)-202(化審法)	10~15
2-プロパノール	67-63-0	(2)-207(化審法・安衛法)	80~90

4. 応急措置

吸入した場合: 患者を直ちに空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で寝かせる。
 頭痛等の異常がある場合、速やかに医師の診断を受ける。
 呼吸していて嘔吐がある場合は、頭を横向きにする。
 呼吸困難又は呼吸が止まっている場合は、衣類を緩め、呼吸道を確認した上で直ぐに人工呼吸を行い、速やかに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合: 汚染された衣類、靴等は速やかに脱ぎ捨てる、触れた部位は多量の水と石鹼で洗い流す。外観に変化が見られたり、かゆみ、炎症等の症状が出た場合は、速やかに医師の診断を受ける。

目に入った場合:	流水で最低 15 分以上洗眼した後、眼科医の診断を受ける。 洗眼の際、まぶたを指で良く開いて、眼球とまぶたのすみずみにまで水が良く行き渡る様に洗浄する。 コンタクトレンズを使用している場合には、固着していないかぎり取り除いて洗浄を続ける。
飲み込んだ場合:	水で口の中を良く洗浄する。 意識がある場合は、可能であれば指を喉に差し込んで吐き出させる。 意識がない場合、無理に吐かせてはならず、口から何も与えてはならない。 直ぐに医師の手当てを受ける。
応急措置をする者の保護:	応急措置をする者は、有機ガス用防毒マスク、空気呼吸器等呼吸用保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項:	症状に応じて処置すること。

5. 火災時の措置

消火剤:	粉末、炭酸ガス、耐アルコール性泡、霧状水
特有の消火方法:	付近の着火源を絶ち、消火剤を使用して保護具を着用して風上から消火する。
消火を行う者の保護:	保護衣、状況によっては不浸透性手袋、呼吸保護具、保護眼鏡等。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置:	付近の着火源となるものを取り除く。 屋内の場合には、処理が終わるまで十分換気する。 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業の際は有機ガス用防毒マスク、またはガス濃度が高い時は自給式空気呼吸器の保護具を着用し、並びに眼及び皮膚への保護具を着用して作業を行う。 風上から作業し、風下の人を待避させる。
環境に対する注意事項:	安全を確認してから、流出防止の措置をとる。 環境への放出を避けること。 万一公共用水域等に流出した場合等、必要がある時は関係行政機関に連絡する。
封じ込め及び浄化の方法及 び機材:	すべての着火源を取り除く。可燃物質を流出物から遠ざける。 大量の漏出の場合、危険を伴わずに出来る場合には、物質の流れを止める。 可能な場合は漏出物が広がるのを防止すること。プラスチックのシートで覆い、拡散を防止する。バーミキュライト、砂、土などの不燃性材料を用いて製品を吸収し、廃棄のため容器に収める。水路、下水道、地下または密閉された場所へ流入を防ぐ。 少量の漏出の場合、布等の吸収材で拭き取る。残った汚染を除去する為に床をよく清掃すること。 元の容器に回収して再使用することは絶対に避けること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策:	取り扱いは換気の良い場所で行い、状況によっては保護眼鏡、保護マスクを使用する。容器はその都度密栓すること。蒸気は空気と混合し、爆発性混合物を生成することがある。 皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、眼に入ったりしないようにする。 取扱い場所には、関係者以外の立ち入りを禁止する。 室内での取扱いは風上より作業する。 火気厳禁。
---------------	--

	炎、火花、高温体との接近、その他点火源となる恐れのある機械等の使用厳禁。また、静電気対策として、液体の輸送、汲み取り、攪拌等の装置は必ずアースを取ること。
局所排気・全体換気：	作業は通気の良い場所で行うか、局所排気装置を設置する。
安全取扱い注意事項：	取扱いは換気の良い場所で行う。 取扱い場所の近くに、緊急時に洗顔及び身体洗浄を行うための設備を設置する。 直射日光に当てないようにする。 ミスト又は蒸気を吸入しないこと。 眼に入らないようにする。 長時間の暴露を避けること。 妊娠中または授乳中の女性は本製品を取り扱ってはならない。 使用中は飲食や喫煙をせず、取扱い後は手をよく洗うこと。 環境への放出を避けること。排水路に流してはならない。
接触回避：	『10. 安定性及び反応性』を参照。
適切な衛生対策：	休憩前や製品取扱い直後には手を洗う。適切な産業衛生および安全対策のもとに取り扱う。
保管	
保管条件：	容器は密栓し、通気の良い場所にて直射日光を避けて、火気厳禁で保管する。
容器包装材料：	弊社より出荷した包装容器を使用すること

8. 暴露防止および保護措置

管理濃度：	200ppm (2-プロパノール)、1000ppm(エタノール)
許容濃度：	日本産業衛生学会(2014 年度版) 400ppm, 980mg/m ³ (2-プロパノール) ACGIH(2004 年) TLV-TWA 200ppm A4 (2-プロパノール) TLV-STEL 400ppm A4 (2-プロパノール) ACGIH(2008 年度提案) 1000ppm (エタノール)
設備対策：	防爆使用の装置、危機又は局所排気装置等、排気の為の装置を設置し、蒸気が滞留しないようにする。 取り扱い場所の付近で使用する電気機器は防爆構造とし、機器類はアースを取る。 取り扱い場所の近くに緊急用の洗眼設備およびシャワーを設ける。

保護具

呼吸器の保護具：	必要に応じて有毒ガス用防毒マスク、陽圧自給式空気呼吸器(火災)を着用する。
手の保護具：	ゴム製等の不浸透性保護手袋(耐溶剤型)を着用する。
眼の保護具：	保護眼鏡(普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用する。
皮膚および身体の保護具：	適切な保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など：	無色透明液体
臭い：	アルコール臭
pH：	該当しない
融点、凝固点：	データなし
沸点、初留点および沸騰範囲：	沸点 78℃以上
引火点：	12℃
発火点：	200℃以上
爆発限界：	2.0～12.7vol%
蒸気圧：	4.44kPa(20℃)
蒸気密度(空気=1)：	空気より大
比重(密度)：	0.79 (20℃)

溶解度: 水、有機溶剤と任意割合で混合

10. 安定性および反応性

安定性: 通常の貯蔵・取扱いの条件においては安定。
蒸気は引火して爆発する恐れがある。

危険有害反応可能性: 通常の貯蔵・取扱いの条件においては安定。
強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険性をもたらす。

避けるべき条件: 高温

混触危険物質: 強酸化剤

危険有害な分解生成物: 燃焼させた時、酸化炭素類、また微量の炭素化合物、二酸化珪素、窒素酸化物、ホルムアルデヒドを生成する。
水および酸、アルカリ化合物と穏やかに反応して(加水分解)、メタノールを生成する。

11. 有害性情報

※以下は 2-プロパノール、エタノールの有害性データを引用。

急性毒性

経口: ラット LD50 3,473mg/kg(2-プロパノール)
ラット LD50 6,200mg/kg(エタノール)

経皮: ウサギ LD50 4,059mg/kg(2-プロパノール)

吸入(蒸気): ラット LC50(4h) 72,600mg/m³(2-プロパノール)
マウス LC50(4h) 39mg/L(エタノール)

皮膚腐食性・刺激性:

EHC 103(1990)、PATTY(4th, 1994)、ECETOC TR66(1995)、CERI ハザードデータ集(1999)のウサギ皮膚刺激性試験では、刺激性なしまたは軽度の刺激性の報告があるが、EHC 103(1990)のヒトでのボランティアおよびアルコール中毒患者の治療のため皮膚適用した試験では刺激性を示さないとの報告から、区分外とした。(2-プロパノール)

眼に対する重篤な
損傷・眼刺激性:

EHC(1990)、SIDS(2002)、PATTY(6th, 2012)、ECETOC TR48(1998)のウサギでの目刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていないことから区分2とした。(2-プロパノール)
目刺激。(エタノール)

呼吸器・皮膚感受性:

呼吸器: データなし。(2-プロパノール)
皮膚: SIDS(1997)のモルモットでのビューラー法による皮膚感受性試験では陰性であった。一方、EHC(1990)の皮膚炎発症例で 2-プロパノールのパッチテスト陽性例には、低分子の 1 級または 2 級アルコール、プロピレンオキサイドにも陽性を示しており、2-プロパノールが原因物質か否か明確でないことから、データ不足により分類できないとした。(2-プロパノール)

生殖細胞変異原性:

SIDS(1997)の in vivo でのマウス骨髄細胞を用いた小核試験で陰性であることから区分外とした。(2-プロパノール)

発がん性:

IARC(Access on Oct 2005)でグループ3、ACGIH(2003)で A4 に分類されていることから、区分外とした。(2-プロパノール)

生殖毒性:

EHC(1990)、IARC(2005)、PATTY(1994)のラットでの飲水投与による 2 世代繁殖試験では、繁殖能および出生子の発育に影響なかった。一方、EHC(1990)、SIDS(1997)、ACGIH(2003)、のラットでの発育毒性、催奇形性はなかったが、親動物に体重増加の低下、麻酔作用等の毒性を示した用量で、妊娠率の低下、吸収胚の増加、胎児死亡の増加等の生殖毒性が認められたとの記述から、区分2とした。(2-プロパノール)
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ。(エタノール)

特定標的臓器・全身毒性
(単回ばく露):

SIDS(2002)、EHC 103(1990)、環境省リスク評価第 6 巻(2005)の記述から、本物質はヒトで急性中毒として中枢神経抑制(嗜眠、昏睡、呼吸抑制など)、消化管への刺激性(吐き気、嘔吐)、血圧、体温低下、不整脈など循環器系への影響を

含み、全身的に有害影響を生じる。また吸入ばく露により鼻、喉への刺激性(咳、咽頭痛)を示すことから、気道刺激性を有する。以上より、区分1(中枢神経系、全身毒性)、及び区分3(気道刺激性)に分類した。(2-プロパノール)

気道刺激性、麻酔作用。(エタノール)

特定標的臓器・全身毒性
(反復ばく露):

ラットに本物質の蒸気を4ヶ月間吸入ばく露試験で、100mg/m³(ガイダンス値換算濃度:0.067mg/L/6hr)以上で白血球数の減少が見られ、500mg/m³(ガイダンス値換算濃度:0.33mg/L/6hr)群では呼吸器(肺、気管支)、肝臓、脾臓に病理学的な影響が認められた(EHC 103(1990))との記述から、標的臓器は血液系、呼吸器、肝臓、脾臓、であると判断し、血液は区分1、呼吸器、肝臓、脾臓は区分2とした。なお、吸入又は経口経路による動物試験において、区分2のガイダンス値を上回る用量で、麻酔作用、血液系への影響がみられている(SIDS(2002)、PATTY(6th 2012))。(2-プロパノール)

長期にわたるまたは反復暴露により肝臓、中枢神経に影響を与える可能性がある。(エタノール)

吸引性呼吸器有害性:

データ不足のため分類できない。旧分類のデータが確認できないことと、分類ガイダンスの変更により分類を見直した。(2-プロパノール)

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境急性有害性:

魚類(ヒメダカ)の96時間LC50 > 100mg/L(環境省生態影響試験、1997)から、区分外とした。(2-プロパノール)

水生環境慢性有害性:

魚類の96時間LC50 > 100mg/L(エタノール)

難水溶性でなく(水溶解度=1.00×10⁶mg/L(PHYSPROP Database、2005))、急性毒性が低いことから区分外とした。(2-プロパノール)

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物:

おがくず、布切れ等に吸収させて焼却炉で焼却する。その際、シリカの微粉が生成するため、適切な設備での焼却が必要。

大量廃棄物:

焼却を行う等、環境汚染とならない方法で処理、処分する。またシリカの微粉が生成するため、適切な設備での焼却が必要。

汚染容器および包装:

外部の業者に委託する場合は、都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。

内容物を完全に除去した後に都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。

その他、廃棄物の処理および清掃に関する法規制の定めるところに従う。

14. 輸送上の注意

国内規制

陸上規制情報:

消防法の規定に従う。

海上規制情報:

船舶安全法の規定に従う。

国連分類:

クラス3(引火性液体)

国連番号:

1133(接着剤)

指針番号:

128

特別の安全対策:

容器に漏れがないことを確かめ、転倒、落下、損傷の無い様に積み込み、荷崩れ

の防止を確実に行う。火気厳禁。大量の製品を車両によって運搬する場合、運送人に運送注意書を交付する。

その他、消防法、船舶安全法等の法令の定めるところによる。

15. 適用法令

労働安全衛生法： 令別表第一危険物(引火性のもの)
表示物質(2-プロパノール、エタノール)
通知対象物(2-プロパノール、エタノール)
有機溶剤中毒予防規則： 第二種有機溶剤
消防法： 危険物 第四類第一石油類(水溶性液体) (危険等級Ⅱ)
船舶安全法： 引火性液体
その他、地域の法規制の定めるところに従う。

16. その他の情報

参考文献

国際化学物質安全性カード(ICSC)
有機溶剤作業主任者テキスト
製品安全データシート作成指針(日本化学工業協会)
JIS Z 7250 (日本規格協会)
NITEによるGHS分類結果

※ここに記載された情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。すべての化学品には未知の有害性が有り得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行って下さい。